

『山梨県高等学校教育研究会 教育情報・視聴覚部会 平成14年度「教育情報・視聴覚」分野・学校評価アンケート』

前 山梨県教育情報・視聴覚部会事務局（山梨県立甲府工業高等学校 教育情報部）
手塚幸樹 望月 裕 澤登美接 中澤 透 伊東雅人 三神幸子

山梨県では「県立学校教育イントラネット整備事業」により、平成14年3月全県立学校等に校内LANの構築が進み、全HR、6つの特別教室、全職員室がネットワーク化された。教室については無線LAN、職員室はケーブルで接続。他、各校、全教員に1人1台ノートPCが配備。TV会議システムとマルチメディアボード、プロジェクタ等の情報機器も導入された。

これらの情報機器を保守・管理・運用する各校の校務分掌等の研究組織として、「山梨県高等学校教育研究会 教育情報・視聴覚部会^(注1)」がある。この部会事務局が担当して「県立学校教育イントラネット整備事業」導入後の各校の状況についてWEBを使ったアンケートを実施した。以下に平成14年度山梨県における「教育情報・視聴覚」分野の成果と課題をまとめた。

[1]平成14年度「教育情報・視聴覚」分野 学校評価アンケート集計結果

- ▼期間：平成15年1月14日にWEBアンケート開始、2月14日までネットワークからWEBアンケート（AutoASP^(注2)により）で回答・集計。
- ▼連絡：回答は事務局で書式などの都合で一部修正。
- ▼対象：山梨県 教育情報・視聴覚部会会員（県立・公立・私立学校）192名
- ▼回答率：55%（192名中106名回答）
- ▼掲載：レポートは県高校教育研究会と教育情報・視聴覚部会の研究集録（冊子及びWEB）に掲載。
- ▼電子メール：何かあれば部会事務局までメール連絡。
- ▼協力：県教委、県総合教育センター

■アンケート集計結果

1 記載者（学校）必須・・・省略

2 記載者（氏名）匿名可・・・省略

3 教育の情報化に対応する分掌は有効に機能していますか？

- はい（64%）
- いいえ（6%）
- どちらともいえない（28%）
- 分掌がない（2%）

4 教育の視聴覚化に対応する分掌は有効に機能していますか？

- はい（61%）
- いいえ（3%）
- どちらともいえない（32%）
- 分掌がない（1%）

5 教育の情報化業務を全職員が理解していますか？

- はい（32%）
- いいえ（16%）
- どちらともいえない（50%）

6 教育の視聴覚化業務を全職員が理解していますか？

- はい（27%）
- いいえ（14%）
- どちらともいえない（59%）

7 教育の情報化に係わる校内研修は行われていますか？

- はい（65%）
- いいえ（17%）
- どちらともいえない（11%）
- 研修がない（7%）

8 教育の視聴覚化に係わる校内研修は行われていますか？

- はい（27%）

- いいえ (27%)
 どちらともいえない (37%)
 研修がない (9%)
- 9 学校独自のネットワーク利用のガイドラインを制定して、啓発活動を行っていますか？
 はい (55%)
 いいえ (9%)
 どちらともいえない (31%)
 ガイドラインがない (2%)
- 10 所属校のホームページは地域やPTAとの連携に役立っていますか？
 はい (38%)
 いいえ (17%)
 どちらともいえない (43%)
 ホームページがない (2%)
- 11 ネットワークが専用回線で接続されている学校で、回線状態はいかがでしょうか？
 よい (72%)
 わるい (4%)
 どちらともいえない (20%)
 回線がない (3%)
- 12 グループウェアは、教育活動を効果的に行うための校内情報が公開されていますか？
 はい (28%)
 いいえ (19%)
 どちらともいえない (47%)
 グループウェアがない (6%)
- 13 テレビ会議システムが、授業や研修などに有効活用されていますか？
 はい (5%)
 いいえ (61%)
 どちらともいえない (23%)
 テレビ会議システムがない (10%)
- 14 マルチメディアボードが、授業や研修などに有効活用されていますか？
 はい (38%)
 いいえ (28%)
- どちらともいえない (26%)
 マルチメディアボードがない (7%)
- 15 プロジェクタが、授業や研修などに有効活用されていますか？
 はい (82%)
 いいえ (3%)
 どちらともいえない (13%)
 プロジェクタがない (0%)
- 16 教室PCが、授業に有効活用されていますか？
 はい (28%)
 いいえ (21%)
 どちらともいえない (42%)
 教室PCがない (9%)
- 17 あなたの学校では全職員が、メールを1日1回確認しますか？
 はい (21%)
 いいえ (34%)
 どちらともいえない (42%)
 個人メールアドレスが発行されていない (0%)
- 18 あなたの学校では、先生一人一台パソコンは有効活用できていますか？
 はい (70%)
 いいえ (5%)
 どちらともいえない (20%)
 先生一人一台パソコンがない (2%)
- 19 県立学校では学校情報支援システム「GrapeWare」の使用が開始されていますが、登録業務が終了して、時間割変更・学校行事・旅行申請・休暇申請分野などに有効活用されていますか？
 全てに有効活用している (9%)
 時間割変更は活用している (3%)
 学校行事は活用している (11%)
 旅行申請は活用している (16%)
 休暇申請は活用している (8%)
 活用できていない (34%)
 どちらともいえない (25%)
 GrapeWareがない (8%)

20 総合学科・単位制高校などでは市販（※県で委託開発）の校務処理システムが導入されていますが、有効活用されていますか？

- はい（15%）
- いいえ（12%）
- どちらともいえない（27%）
- 市販の校務処理システムがない（44%）

21 県立学校では生徒用グループウェア「DelaWare」の使用が開始されていますが、登録業務が終了して、有効活用されていますか？

- はい（3%）
- いいえ（60%）
- どちらともいえない（27%）
- DelaWareがない（10%）

22 以上のネットワークとメディアの環境を有効活用して、すべての授業で「わかる授業」が推進されていますか？

- はい（2%）
- どちらかという「はい」（30%）
- どちらかという「いいえ」（26%）
- いいえ（5%）
- どちらともいえない（33%）

23 「教育情報・視聴覚」分野における要望事項がありましたらコメントをお願いします。・・・省略

24 このアンケートについてご意見を申し上げます。・・・省略

25 最後に教育情報・視聴覚部会の活動についてご意見を申し上げます。・・・省略

[2]アンケート集計結果のまとめ

3, 4, 5, 6は「教育情報・視聴覚」分野の校内分掌についてのアンケート。各校に「教育情報・視聴覚」分野の校務分掌は6～7割程度設置されているようだが、職員全体の認知度は3割程度と低く、当該分掌の関係各位へのアナウンスの必要性を感じる。分掌名称の統一による情報共有化と、業務分担が確立した校務分掌として位置づ

ける必要を強く感じる。

7, 8は「教育情報・視聴覚」分野の校内研修の様子であるが、情報研修については7割実施で概ね良好。視聴覚研修は視聴覚機器の設備充実度が校内研修のポイントにそのまま反映されていると考える。高価ではあるがコンテンツ作成の礎となる視聴覚機器の設備充実を希望する。

9, 10はホームページのアンケートである。ネットワークガイドラインのある学校が5割。ガイドラインがなければ、問題発生したときその都度対応しなければならぬのでWWW担当（概ね情報担当が兼務）には過負荷。大変でも運営委員会、職員会議を経たネットワークガイドラインは必要と考える。ホームページが地域などとの連携に活用されているかに4割。学校開放の礎であるホームページの活用が望まれる。この分野の研究活動が不足気味。校内・校外の支援体制が望まれる。

11は回線状態。7割が良好。

12はグループウェアの情報発信の内容。7割が満足していない。多様な情報掲載が必要。

13はテレビ会議。8割程度活用できていない。相手校探しなど、準備に時間が取れないと考えている。交流活動を含めた研究会など早急な対応が必要であろう。活用している学校ではフリーソフトの導入により工夫もしている。

14はマルチメディアボード。4割は活用している。

15はプロジェクタ。8割が活用。更なる導入を期待したい。

16は教室設置PC。6～7割が活用できずにいる。この分野の研究活動が大いに必要。

17は教職員のメール確認。7～8割が毎日確認できていない。抜本的な対策が必要と考える。また、校務情報をインターネットメールで流すには情報管理的に課題があると感じる。イントラネットメールが好ましい。反面、18の先生一人一台PCの活用は7割と良好。この活用率をメール活用に反映させたい。

19が学校情報支援システムの分野別活用率。6割が活用できていない。市販のグループウェアに比べ使い勝手で少し難があるが、難点を協力しながら克服する努力も必要と考えている。PCやネットワークは予算確保できれば最高レベルにすぐに達することができるが、学校の情報化、特に教

職員の情報活用化は時間がかかることを16, 17, 18, 19のアンケートから読みとれる。校内・校外の計画的な研修が必要と考える。

20は校務処理システム。5割弱が未整備。各校への整備を希望する。

21は生徒用グループウェア。7割が活用できていないが、教科情報の開設により活用される見通しがある。

22はまとめのアンケート。ネットワークとメディアの環境を有効活用して、すべての授業で「わかる授業」が推進されていますか？ の問いに3割がはい、3割がいいえ、3割がどちらともいえない。わかる授業の推進率が3割。今後この推進率アップの更なる実践や研究が必要であると、強く考えている。

23は「教育情報・視聴覚」分野における要望事項。山梨県の各校担当の悩みが語られている。

- ・ PCやネット、メディアを活用するには担当だけの活動では限界がある。情報化、視聴覚化は校内職員の理解が必要。
- ・ 情報が多様なだけに、校内に簡単でも良いからガイドライン作成が必要。
- ・ 機器導入の業者対応、機器故障や保守対応、校内教職員のクレームや要望などに担当は対応する。担当の教科負担の削減などの配慮が必要。解決策は、これらの悩みをカバーする支援体制である。現在、山梨県総合教育センターのヘルプデスクなどがこれに当たる。

24はこのWEBアンケートについての意見。山梨県総合教育センター^(注3)の協力で実現した。

「WEBページで入力できるので簡単で良い」「授業や校務に活用ができる」など好評であった。今後もこのWEBアンケートで実践研究を続けたい。このWEBアンケートはAutoASPを活用した。AutoASPの関係の皆様へ深く感謝を申し上げる。

25は教育情報・視聴覚部会の活動についての意見。「より多くの情報発信と研修会・学習会の開催」「各校で積極的に情報交換を行い、技術の向上を目指してほしい」と情報発信や交流の場としての活動が望まれている。また「仕事を分散できるような育成の研修や県への訴えなどが欲しい」と県教委への要望対応も期待されている。反面、「部会という各教科を超えての活動となるため、消極的な先生方もいる」「各委員会活動が活発になるように研究を重ねてほしい」と研究の活性化を望む声も多い。

このアンケートから山梨県の平成14年度「教育情報・視聴覚」分野の成果と課題が浮き彫りになったと考える。関係各位の参考になれば幸いである。

尚、平成15年度より事務局は新校舎が竣工した韮崎工業高等学校に異動した。関係の皆様には、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

参考 URL

- (注1) 山梨県高等学校教育研究会 教育情報・視聴覚部会
<http://www.kai.ed.jp/avi/>
- (注2) AutoASP
<http://www.fsinet.or.jp/~joudai/autoasp.htm>
- (注3) 山梨県総合教育センター
<http://www.kai.ed.jp/>

原稿募集について

i-Netに掲載する原稿を広く募集しております。

◆執筆要領：原稿は、情報教育に関するオリジナルのものであれば、内容は問いません。字数は3000～7000字前後で、冒頭には、必ずタイトルをおつけください。原稿につきましては、以下にお送りください。なお、お送りいただく際には、お名前、連絡先（ご住所、電話番号、勤務先、メールアドレスなど）の記載を忘れずにお願いします。

*ワープロで原稿を作成された方は、データをFDなどにコピーして、コピーしたメディアと使用したワープロのファイル形式を記載して、ハードコピー（プリントアウトした紙）も一緒にお送りください。（FDなどのメディアは、後日ご返却いたします。）

◆原稿の送り先：〒102-0073 東京都千代田区九段北1-12-11 数研出版株式会社 東京本社編集部 i-Net 係

*掲載量には限りがございます。その際には、編集部で原稿を選択させていただく場合がございますので、ご了承ください。また、内容の趣旨が変更されない範囲で、原稿の一部を修正させていただく場合もございます。掲載させていただきました分につきましては、弊社規定の原稿料をお支払いいたします。